10

では歴代のJDR医療チーム関係者が講演

JDR医療チームは、次の派遣時にテント内で大規模な手術ができ

JICA UPDATE

30周年から新たなステ 国際緊急援助隊・医療チ -ム、

1月20日、国際緊急援助隊(JDR)

DRが設立された経緯、当時かかわった で地震や津波、洪水などの災害が発生 市)で開催されました。JDRは、海外 医療チームの前身である国際救急医療 史を振り返りました。カンボジア難民の じめ、歴代の委員長らがJDR30年の歴 の医療関係者により構成されています。 施する組織。医療チームは、全国の有志 した時、人命救助や医療活動などを実 念するセミナーがJICA関西(神戸 チーム(JMTDR)の設立30周年を記 語られました。 人たちの思い、現場での苦労話などが 救済をきっかけに、1982年にJMT ―ム支援委員会の甲斐達郎委員長をは セミナーの第一部では、JDR医療チ

2004年のスマトラ沖大地震・インド が被災地で行ってきた緊急援助活動に これまでに計60チーム、のべ約900人 洋津波、2010年のハイチ地震など また、8年のエチオピア干ばつ被害

た、講演後には参加者との意見交換が 本大震災で「災害支援ナース」の体制を いて、看護師の石井美恵子さんは、東日 外の災害現場で活躍している事例につ 設立したNPO法人災害人道医療支援 構築した活動について報告しました。ま 会の鵜飼卓顧問は、JDR経験者が海 しました。また、医療チームのメンバーが 行われました。 入の準備を進めていることなどを紹介

> て調印される案件になります。 10月に本格再開されてからは、

ベトナムでは一般的に、工業団地からの排

Aが出資や融資を通じて支援するもの。昨年 するため、民間企業が実施する事業をJ-C

本事業が初め

の投資環境整備にもつながることが見込まれ した持続可能な成長支援に加え、日本企業 ベトナムの産業発展と環境対策の両面に対応 配慮を徹底した工業団地を整備することで、 や給水事業などを実施するものです。環境 が現地企業と共に、工業団地向け排水処理

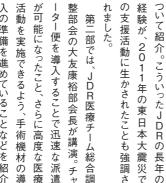
今後は、神戸市が浄水場の運営管理に参

神鋼環境ソリューションと神鋼商事株式会社 事業は、海外投融資を活用して、株式会社 下水の枯渇が深刻な問題になっています。本 水による公害、工業用水の需要増加による地

業に力を入れていきます。 れます。J-CAは引き続き、 ンフラ輸出のモデルケースとなることが期待さ 画する予定。官民連携によるパッケージ型イ

海外投融資事

に期待が寄せられています。 向けて、JDR医療チームの今後の活動 より効果的な緊急援助活動の実現に



たベトナムのインフラ整備事業に調印しました。

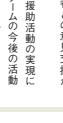
1月30日、JICAは、海外投融資を活用し

海外投融資は、開発途上国の開発を促進

海外投融資事業

再開後初のインフラ事業がスタート

● 大阪で「ワン・ワールド・フェスティバル」開催



2月2~3日、関西地区最大の国際協力

のイベント「ワン・ワールド・フェスティバル」 などがブースを出展。 国内外での国際協力の 際協力を行う企業や大学、NGO、国際機関 が大阪国際交流センターで開催されました。 取り組みを紹介しました。 会場では2日間にわたり、関西を拠点に国

さん(アンダーグラフ)と、田中雅美さんが プロジェクト」著名人メンバーの真戸原直人 メッセージを世界地図に貼り付けました。 メインステージでは、 「なんとかしなきゃ!

るよう研修を進めている

タイについて報告するとともに、国際協力に そろって登壇。それぞれが視察したマラウイ、 携わるようになったきっかけについて話しまし

のステージ」では、 *今、が伝えられ、 毎年恒例、医師の桑山紀彦さんの「地球 音楽と語りでアフリカの



ている「なんとかしなきゃ!プロジェクト」の NGO、国際機関、J-CAが共同で実施し 取り組みやボランティア事業をパネルで展示。 ました。JーCA関西のブースでは、各国での てもらえるよう、さまざまな企画を準備し

JICAも来場者に国際協力に関心を持つ

ブースでは、 来場者に書いてもらった世界への

に多くの人が聞き入っていました。 た。トークの後には、真戸原さんの弾き語り

国際民間協力会 昨年ウガンダを とのトークショー 居徳正事務局長 益社団法人日本 山葉奈さん、公 カレポーターの芝 視察した国際協 も行われました。 (N-CCO)の折

-スを訪れた来場者